

平成 30 年度第 1 回下呂市地域公共交通会議議事録

日時：平成 30 年 10 月 16 日（火）

10 時 00 分～11 時 30 分

場所：下呂市役所 3 階 第 1 会議室

1. 開会

2. 市長挨拶（服部市長）

3. 議事

（以下、意見交換の内容）

【議第 1 号】 げろバス萩原 バス停の名称変更について	
事務局	議第 1 号について説明。
委員①	変更時期はいつなのか。
事務局	承認いただけたら、今月中に運輸支局に届け出たい。また現地も今月中に変更したい。
会長	意見はありますか。 無いようなので、承認いただける方は挙手をお願いしたい。 （挙手） 挙手多数なので承認する。
【議第 2 号】 下呂バス金山 ダイヤ変更について	
事務局	議第 2 号について説明。
委員②	提案理由の「4月の JR ダイヤ改正に伴い」とあるが、平成 30 年なのか平成 31 年なのか分かりにくいので、正確に表記したほうが良いのではないかと。
事務局	正確に表記し、議案を差し替えさせていただきます。
委員③	JR ダイヤ改正があったらすぐに対応しなければいけない事項なので、ダイヤ改正があった時点で対応させてもらう、ということを決めていただくのが良いのではないかと。今後も、ダイヤ改正が判明次第、運輸支局に連絡して対応する、ということはこの会議で議決したらどうか。
会長	今回は事後報告という形になりましたが、今後は JR のダイヤ変更に伴うバスダイヤの変更については、事前に変更したうえで公共交通会議に報告させていただく、という方法を含め議決したいがどうでしょうか。
各委員	異議なし。
【議第 3 号】 下呂市地域公共交通網形成計画素案の一部見直しについて	
事務局	議第 3 号について説明。
委員①	補足説明になりますが、2月の素案の段階では具体的事業が明らかになっていないこともあって、特に濃飛バスが走っている路線が全然違うものに付け替わるのか等々細かいところが決まっていなかった状態だったので、濃飛路線との整合性をとるためにネットワーク図の見直しをお願いしたものです。例えば湯屋線などはある時をもってデマンド小坂に替わることになるので、湯屋線は廃止になりデマンド小坂に切り替わるスケジュールになると思われます。今の段階では詳細スケジュールが出来上がっていませんが、2月までに調整していただきたい。また、ネットワーク図を見直すことによって目標値も替わってくるので

	<p>見直していただきたい、ということになります。</p> <p>また、全体の評価と個別の評価は切り分けてもいいですよ、ということになります。目標は市全体の利用者数ですとか満足度などになりますし、個別評価となると第9章に記載されたそれぞれの路線ごとの利用者数だとか乗り継ぎ率など、事業見直しに必要なデータを自由に柔軟性を持たせて取り入れていただきたいと思います。</p> <p>計画にどこまで書けばいいのかより、この会議にちゃんとデータを出すことが大切なことだと思います。特に 1-②支線交通の見直しについては路線ごとに分かるように2月までに取りまとめていただきたい。</p> <p>支局としては、目標を達成するたるために何をやったらいいのか、を含めて助言できる体制を整えていくつもりですので、よろしくお願いします。</p>
会長	2月までに明記できるよう取り組みます。
委員④	<p>2点質問があります。</p> <p>1-②の事業概要について、デマンド交通についてはこれまでの会議の中でも、こういった形態に変えていきたい、という話が出てきたかと思いますが、その他の項目については以前から議論されてきた結果、今回出てきた項目なのか、今回初めて説明するので事業そのものを議論すればいいのか、というのが1点目。</p> <p>もう1つは1-④のタイトル変更についてですが、タイトルの変更は問題ありませんが、国交省としても小さな拠点事業を展開しているの、できればネットワーク図に「小さな拠点」という表現を残していただきたい。</p>
会長	小さな拠点については記載するよう修正します。
事務局	1-②の事業概要については、各地域等で話しあってきた結果を記載したものです。
委員④	今会議で議論して指摘するのは、事業概要の日本語の「てにをは」なのか、事業概要そのものなのか、どちらなのか。
委員①	議論の進め方として、各地域で話しあっている分科会の報告をしていただいて、1-②の内容を議論していただくのが良いのでは。
委員③	事業概要の前段部に「各地域分科会で話しあってきた検討してきた結果である」旨の記載があると、どこからこういった案が出てきたのか経緯が分かりやすいのでは。
委員④	地区ごとに話し合ってきた内容を記載した資料があって、その結果、事業概要に繋がった、という資料があると分かりやすい。次回会議に提示していただくとうえで次回会議に提案したい。承認いただける方は挙手をお願いしたい。 (挙手) 挙手多数なので承認する。
事務局	地域分科会は3地域と1地区で進めています。各分科会で話しあっている内容について、中間報告をしていただきます。
委員⑤	<p>小坂地域は、市内でも過疎地でありながら、濃飛バス湯屋線、下呂小坂線、鳩タクシー、JR 高山線があり、ある意味恵まれた公共交通の中で生活してきましたが、市内でも一番の高齢化地域であり、また人口減少により今年中に3000人を切るのではないかと言われています。高齢化により「生活の足」にいろいろな問題が出ており、地域ケア会議のなかでも「免許を返納するよう言われても生活の足に困る」「病院、買い物にも生活の足がないと困る」「バス等の代わりに検討しても法律等があり思うようにいかない」「対象を限定せず、子どもから大人まで利用できる交通機関があると良い」という意見があります。</p> <p>このようなことを踏まえ、今年5月から5回にわたって分科会を開催してきましたので、その内容を報告します。</p>

	<p>市から小坂地域の公共交通の現状……濃飛バス、特に湯屋線の現在の利用状況や、その湯屋線がなくなってしまう懸念があること、また鳩タクシーが撤退の意向を示されていることなどをお聞きし、「このままでは小坂地域から地域の足がなくなってしまうかもしれない」ということで、自治会長や民生委員、市議会議員などにも集まっていただき、これからの小坂地域の公共交通をどうするのか、を話し合ってきました。</p> <p>小坂の場合、小・中学生はスクールバス、保育園児は保育園バスがありますし、市でもこれは維持していくということですので、特に高齢者の足の確保について話し合いを始めました。</p> <p>その中で、湯屋線は、本数も少なく利用できるバスが限られていることや、バス停まで行くことが困難、またはステップが高くて身体的負担がある、ということから、利用者も限られていて、ほとんどが空の状態です。</p> <p>それに対してタクシーは、湯屋線バスを利用できない方々が診療所の通院に利用され、また湯屋線が走っていない地区の方も通院に利用されることが多く、利用者からも存続の強い要望があり「なくてはならないものだ」というのが参加者全員の意見でした。</p> <p>こういったことから、タクシーには是非残っていただいた上で、現在の湯屋線の替わりになる仕組みも担っていただけないか、という話になっています。</p> <p>基本的な仕組みとしては、予約制、着地点の固定、予約があった停留所を回る自由経路、が良いのではないかと、また、その新しい仕組みは「湯屋線の替わり」という位置づけでスタートするわけですが、できれば、将来は小坂地域全域をカバーできるような仕組みになっていけば良いと意見もあります。</p> <p>まだまだクリアしなければならない課題は多いとは思いますが「小坂地域の足」を残すには、今申し上げた仕組みが一番ではないかと考えていますので、一日も早く実現していただけるようお願いいたします。</p>
委員⑥	<p>金山地域では分科会を3回開催しました。金山の場合、金山駅、金山病院、商業地域を中心に動く2系列のコミュニティバスがあります。朝晩は高校生の利用などがありますが昼間は利用者も少ないのが現状です。ただ病院利用者にとっては本数も少なく、待ち時間が長いという課題があります。</p> <p>これらの解消のため、デマンド方式を利用して、病院と買い物を中心にした仕組みができないか、ということで、金山病院や商工会との話し合いを進めています。</p>
委員⑦	<p>馬瀬地域も過疎地域で、昭和38年ころは3800人いた人口も、現在では1100人を切るような状況です。県の試算では2050年頃に500~600人になるという数字が示されています。</p> <p>馬瀬地域は、馬瀬川に沿うようにある県道を走るバス・馬瀬線が唯一の地域の足で、地域内には診療所はありますが大きな病院や専門医、また商業施設もなく、どうしても地域外に出ていかなくてはならない、という現状です。</p> <p>現在のバスの課題として最初に挙げられるのが、バス路線である県道が、地域の中でも低い場所に位置することからバス停まで行くのが大変だ、ということです。行くのにも大変ですが、買い物をした帰った場合などは、重い荷物を持って坂を上ることになり、もっと大変です。雪など降ればなおさらです。</p> <p>もう一つ課題として挙げられるのが、本数が少ないことと、用事によってはその本数が少ない馬瀬線だけではなく下呂高山線などに乗り継ぐ必要がある、ということです。その場合、行って帰るだけでも一日仕事になってしまいます。</p> <p>また、地域外に出ようにも、現在は午後1時過ぎの便が最終便という不便さもあり、「いつ、どこに行きたい」という利用者のニーズが、現実の馬瀬線では実現できないものになっています。</p> <p>こういった現状は、これまでのような地域内外を巡回する乗り合いバスという方法では、なかなか解決が難しい、ということから「馬瀬地域での理想の公共</p>

	<p>交通」を話し合ってきました。</p> <p>理想として出てきた意見をまとめると「家の近くで乗り降りできる」「利用したいときに利用できる」「目的地まで直接行ける」という仕組みで、そのためには、①利用者の登録制、②利用するに当たっては予約制、③目的地の固定、が必要ではないかという方向で話し合っています。また、目的地を固定することにより、単純で分かりやすい交通サービスになるのではないかと期待しています。</p> <p>また、現在馬瀬線を利用して通園・通学している保育園児、小学生がいます。これについては現在の通学時間帯の馬瀬線を残す、あるいはスクールバスに切替るなどにより足の確保をしていただくことはもちろんですが、中学校への通学用として導入された2台のスクールバスをうまく利用できないか検討していただくよう、お願いしていくつもりです。</p> <p>細かいところの詰めはまだまだこれからですし、様々な制度上また市の財政上、出来ること、出来ないことがあるとは思いますが、馬瀬地域で「これから暮らしていくための公共交通」を作り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>中原地区については自治会長が委員ではないため事務局から報告します。</p> <p>中原地域については他地域とは違い、新しい交通体系をつくるというよりも、現在、濃飛バスによって運行されているデマンド下呂を利便性・効率性という観点から見直しを行うものです。デマンド下呂をバスからタクシーへと切替えることについては、数年前から言われていましたが、ようやく本格的な話し合いが始まり、中原地区の区長、福祉委員、民生委員を交えての分科会を3回開催し、それと同時に濃飛バス・ライドシステムズともに協議を進めています。</p> <p>今回、デマンドバスからデマンドタクシーに変更するにあたって。大きく変わる点についての説明をします。</p> <p>まずは、既存のデマンド下呂をデマンド中原・デマンド上原に分け、久野川まわりを廃止し、予約に応じて中原全域をカバーします。また、現在のダイヤ・路線は通院・買い物のどちらにでも対応可能なものとなっておりますが、通院と買い物のお客様は基本は同じですが、微妙に時間帯がズレます。</p> <p>また、高齢者にデマンドの利用を分かり辛くさせているとの意見もあり、午前便は通院、午後便は買い物というように。より目的を特化させ「このバスに乗れば病院に行ける」「このバスに乗れば買い物に行ける」というような簡単な仕組みを交通事業者と協議しています。</p> <p>また、予約時間についても、現行は前日の16時までとなっておりますが、もう少し幅を持たせた予約時間とすることが出来ないか、ミーティングポイントも車両の小型化によりもう少し細かく設定できないかを現在協議しているところです。</p> <p>今後はもう少し細かなニーズを地元から聞き、アドバイザーや支局にも制度上の問題点を確認しながら、平成30年4月からの運行を目指しています。</p>
委員①	<p>馬瀬地域の報告を聞いて、馬瀬地域から萩原地域などへの直行便を整備する場合、ネットワーク図の赤い矢印が現在萩原地域へ出向いていないので、記載方法どうするか詰める必要があると思います。また県補助をいただいて運行している濃飛バスがあります。それを、いきなりなくす訳にもいかないですし周知期間も必要だと思うので、濃飛バスとスケジュール等の調整もお願いしたい。</p>
委員③	<p>デマンド方式の話が出てきているが、デマンドの場合、行きは自宅で予約して行けるので良いが、帰りをどこで、どうやって予約するのか等をよく考えないといけない。目的の施設とのつながりも地域の皆さんと考えていってほしい。また、運行形態だけでなく、帰るまでの時間の過ごし方なども一緒に考えていただけると良いと思います。</p>

【報第1号】	
平成29年度コミュニティバス、デマンドバスの利用実績について	
事務局	報第1号について説明 馬瀬線が対前年比大幅減となっていますが、平成29年4月より馬瀬中が萩原南中に統合されスクールバス利用となったことによる減です。
各委員	意見無し。
【報第2号】	
下呂市福祉乗合型移動サービス事業の利用実績について	
事務局	報第2号について説明
各委員	意見無し。
委員⑧	事業概要として出てきたデマンド方式と、現在運行しているまめなカーの摺合せ作業は必要だと思います。現在のまめなカー方式が小坂や馬瀬地域で実施できれば1番良いと思いますが、今後事務局と話し合いながら良い提案をしていきたいと思っています。
その他	
委員⑦	地域分科会でも意見が出ましたが、公共交通の必要性は皆さんが認めているところですが、実際は利用していないのが現状です。自動車社会になってきたことはもちろん、地域住民の責任もあると思っています。高齢になった方の免許証返納を家族が申し出たら「警察が自分の免許証を取り上げた」と勘違いされる方もいました。1日でも早く、使い勝手の良い方法を目指して取り組みたいので、よろしくお願いします。
委員⑨	萩原地域でも、小坂や馬瀬に似た地域があり、同じような問題がある。こういった地域を見逃すことなく、積極的に議論を進めていただきたい。
事務局	今後、萩原を含め下呂地域でも地域分科会を進めていきたいので、よろしくお願いします。

6. 閉会